

1. 第三者評価結果概要表

作成日 平成 19年 11月 1日

【評価実施概要】

事業所番号	2875101566		
法人名	医療法人 敬愛会		
事業所名	ポートピアシルバーホーム		
所在地	神戸市中央区港島中町5丁目2-3 (電話) 078-304-7733		
評価機関名	社会福祉法人 兵庫県社会福祉協議会		
所在地	神戸市中央区坂口通2-1-18		
訪問調査日	平成19年8月30日	評価確定日	平成19年11月12日

【情報提供票より】(平成19年 8月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 16年 10月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算	8.5人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨 造り		
	6 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	77,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円
敷 金	有(円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	250 円	昼食 350 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(8月 1日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護 1	5 名	要介護 2	3 名
要介護 3	0 名	要介護 4	0 名
要介護 5	0 名	要支援 2	1 名
年齢	平均 82 歳	最低 76 歳	最高 91 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	財団法人神戸マリナーズ厚生会 神戸海岸病院
---------	-----------------------

【第三者評価で確認されたこの事業所の特徴】

ポートアイランドにあり、六甲山の美しい緑が見え海辺に近いところに位置し、周辺は平地で歩道も広く、ホーム前に公園もあり、散歩等に適している。6階建て老人保健施設の1階部分が1ユニットのグループホームである。併設の老人保健施設には認知症専門棟もあり、医学的相談や応援が得やすくなっている。家庭的で落ち着いた雰囲気の中で、玄関側には、ナスビ、カボチャや花が植えられ利用者の楽しみとなっている。ケアの面でも職員は自然体を心がけ、尊厳を大切にしており、安心の中で過ごせるように取り組んでいる。今後は利用者が地域の一人として外出したり行事に参加する等につなげられるよう、地域の理解を得るためのより積極的な取り組みが期待される。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:第三者4)
	職員研修体制や入浴等の課題等、取り組めるところから改善に取り組んでいる。地域との交流や食事、外出に関しては、立地や周辺の状況などがあり、すぐに改善することは困難であるが、前向きに検討している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:第三者4)
	自己評価を受ける意義や、第三者評価を受けることによりサービスの質の向上に繋げることを全スタッフが共通認識できている。話し合いや第三者評価の中で得られた気づきがあるので、課題を改善していくことにより、より良いホーム作りを目指している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:第三者4,5,6)
	地域の内科医の参加もあり、ホーム側が一方向的に会議を進めるのではなく、出席者から意見や要望があれば、サービスの向上に向けて積極的に取り入れるようにしている。会議の内容は全職員が共有できるようにしている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:第三者7,8)
	ホームだより「しおかぜ」を年2回家族に送り、日々の暮らしや行事、金銭出納内容等の報告をしている。利用者の暮らしぶりや健康状態等、ちょっとした情報も報告できるよう、たよりの発行回数を増やすなど、家族との話し合いをさらに深め、ホームの運営やサービスの向上について共に考えていける取り組みが期待される。今後家族会を計画しているため、取り組みが期待される。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:第三者3)
	ホームが市街地や近隣住宅からは遠く、気軽に行き来は望めないものの、運営推進会議の中で委員に理念について理解いただいたり、日常生活の中であいさつをする等ホームつについて理解を得られるよう取り組んでいる。現状では近隣大学の学生ボランティアが来ており、これらをきっかけに利用者が地域の活動に参加できるような取り組みの広がりが期待される。

2. 第三者評価報告書

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	今年4月、管理者が独自の理念を地域との結びつきを意識して明文化し、ホーム内の掲示板に掲示している。運営推進会議にもかけ、管理者は入居者や家族に対して分かりやすく説明している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の勤務の中で理念を意識し共有する様に、目に付きやすい所に掲示し、職員の意識向上を図っている。全スタッフが理念を暗唱できるよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	運営推進会議の中で委員に理念について理解いただいたり、日常生活の中であいさつをする等ホームつについて理解を得られるよう取り組んでいるが、ホームが近隣住宅から遠いこともあり、現状では気軽に行き来はできていない。		今年4月から近隣大学生のボランティアを受け入れ、作業、食事支援、話し相手として訪問してもらっている。現在、10名登録があり、これらをきっかけに利用者が地域の活動に参加できるような取り組みの広がりが期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び第三者評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者とスタッフで話し合い、評価を受けることがサービスの改善につながることを共通認識できるようにしながら評価に取り組んでいる。前回の評価でも気づきがあり、スムーズな改善につなげ、よりよいホーム作りを目指している。		前回より継続している課題、また今回の自己評価での振り返りや評価で出てきた課題についても改善計画を作成するなど、今後も職員全員でサービスの質の向上を計画的に目指す取り組みが期待される。

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>地域の内科医の参加もあり、ホーム側が一方的に会議を進めるのではなく、出席者から意見や要望があれば、サービスの向上に向けて積極的に取り入れるようにしている。会議の内容は全職員が共有できるようにしている。</p>		
6	9	<p>市町との連携</p> <p>事業所は、市町担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>事業運営において問題や疑問点があれば、ホーム側から出向いて市の窓口担当者と課題解決に向けて話し合っている。しかし、市からの情報提供は少なく、連携は十分とはいえない。</p>		<p>行政に対して研修の受入れを提案する等、日常のグループホームで培った気づき、また技術を地域に伝える取り組みを積極的に行うことが望まれる。</p>
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>ホーム日より「しおかぜ」を年2回家族に送り、日々の暮らしや行事の報告をしている。金銭出納帳も年2回報告している。</p>		<p>本人が電話する時など、本人だけでなく、ホームも一言家族の方に声かけなどの働きかけが期待される。今後も家族との話し合いを更に深め、たよりの発行回数を増やすなど、ホームの運営やサービスの向上について共に考えていける取り組みが期待される。</p>
8	15	<p>運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>家族の訪問時、家族から意見、苦情、要望等の発言しやすい雰囲気づくりを常に心掛けている。現状では運営推進会議に出席している家族代表者と改善に向けた話をしている。</p>		<p>家族会を行う計画もあるため、家族同士が気軽に集まれる機会を設定し、それぞれの立場での意見をもらい、またホームへの理解を深めてもらう取り組みが期待される。</p>
9	18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>管理者、職員は、可能な限り固定し異動等はないようにしているが、やむを得ず異動や離職のある時は、引継ぎ期間を十分にとって利用者へ影響はないよう努めている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>職員の知識や技術等の向上は、ホームの質の向上につながると捉え、認知症介護実践者研修や認知症リーダー研修等、個々のレベルに応じて毎年順次受講するようにしている。その他の外部研修、内部研修も積極的に参加させている。</p>		
11	20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>現在のところ他法人・同業者との交流は、具体的にはできていない状況である。</p>		<p>今後、市内にある同業者との交流・ネットワーク作りに積極的に取り組む事や、また全国や県域の連絡会等での情報収集等に取り組む事が期待される。</p>
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入居の前に十分見学をしてもらい、職員と話すなどして安心感をもってもらうよう努めている。居室を見る以外にも、その時々レクリエーションに加わってもらったり、行事で一緒になることもある併設の老人保健施設も見てもらっている。</p>		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>利用者と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、利用者を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、利用者から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>人生の先輩として尊敬の心を忘れないように関係を築いていくよう努めている。職員は常に利用者から教えていただいているという事を意識して支援している。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1.一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>日々の会話や関わりの中で「さりげなく・自然に」をモットーに、利用者の思いを把握するように努めている。汲み取ることが困難な場合は家族から聞きとり、また利用者の立場に立って考えてみたりするなど、職員間で話し合っている。</p>		
2.より良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人、家族、関係者の意見も取り入れて、スタッフ全員の意見をまとめた上で、利用者本位の介護計画作成が作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、利用者、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>見直しは3ヶ月毎に行い、変化のある利用者にはその都度、必要に応じて見直しを行なっている。</p>		
3.多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>利用者や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>利用者や家族の必要性に応じて柔軟な体制で対応するようにしている。通院も近いところは職員が、家族が行ける時は家族でと、ケースバイケースで対応している。基本的には職員が付添いなどを行なうようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. より良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	<p>かかりつけ医の受診支援</p> <p>利用者や家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>ホーム近所の医院医師を主治医とする方が多く、ホーム入居前からのなじみの医師に受診の方も信頼関係ができていれば継続する事で利用者の安心につなげている。家族の状況に応じて職員が受診に付き添っている。医療機関への受診については、入居時にしっかり話し合うようにしている。</p>		
19	47	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から利用者や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>ホームで「できること」と「できないこと」をはっきりさせ、「できるだけ早い段階で」を心掛けて本人や関係者と相談し、家族にも理解を得られるように話し合っている。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない</p>	<p>生活面で自尊心を傷つけない言葉かけに取り組み、管理者、リーダーが職員の言動に気を配り、気をつくことがあれば職員に注意し、プライバシー確保の意識向上に取り組んでいる。</p>		
21	52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>「ゆっくり、ゆったり」をモットーに、職員側の都合を押し付けることがないように注意している。基本的な1日の流れはあっても、本人のリズムや主体性を尊重して過ごせるようにしている。</p>		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立や食材選びは利用者とともに行えておらず、食事は併設の老健施設で作ったものが運ばれている。配膳や盛り付けを利用者の方たちで役割分担し、一緒に行なっている。		心理的な機能維持訓練もホームの役割のひとつであるので、ホーム全体で食の持つ意味を検討し食事をより楽しめる取り組みが望まれる。ホームとしても献立から調理までを1ヶ月のうちの数回から取り入れていく意向があるため、今後の実践が期待される。
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的な入浴日を決めているが、利用者に入りたい意向がある場合等はその他の日も入浴やシャワーができるようにしている。介助を要する方には、プライバシーに配慮した介助を行っている。		入居前の生活リズムや利用者の意向を再度確認し、一人ひとりに合わせた入浴ができるよう体制整備が望まれる。今後、ホームとしても随時好きな時間に入浴できるようにしたい意向があるので、その取り組みが期待される。
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしを活力あるものにするために、個々の得意分野をいかしての役割分担や楽しみ事を作る工夫がある。洗濯、おしぼりたたみ、花への水やり、また食事盛り付け、配膳など、職員主導でない役割や楽しみごとを持てるよう支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	現在のところホーム周辺の散歩などは行なっているが、職員側の都合で行き先を決める場合がある等、利用者の希望にそっては行えないところもある。		ホーム周辺で歩いていける範囲に店舗がほとんど無い立地であるが、ホームセンター等への買物、外食、集会や行事への参加等、より積極的に取り組むことが期待される。
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室にも24時間を通しては鍵かけておらず、利用者居室の掃きだし窓も希望で開けている。また玄関の鍵も日中は開けている。		

第三者	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日頃より地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署と連携して避難訓練を実施している。また、夜間用連絡網も運営推進会議協力のもと作成し、壁に掲示している。		さらに隣接している特別養護老人ホーム、地域の小学校等にも、相互の協力体制づくりや、認知症の人やホームに対する理解と協力が得られるよう、日頃より働きかけることが期待される。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量と水分摂取量を把握し記録している。水分摂取の少ない方は、自然に促し不足しない様工夫している。また、併設老健施設より管理栄養士にカロリーや栄養バランス等専門的な観点からチェックを受けている。		
2.その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう自然体の感覚を意識し、五感に働きかける空間作りを心掛けている。また、週2回の職員・利用者の大掃除で床も共用の空間も清潔に整えられ、明るく居心地よく過ごせる様にしている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、利用者や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みについては、入居時に話し合い、馴染みの家具、写真、机等を居室に置き、本人の混乱を防いだり、安心感をもって居心地よく過ごせる工夫をしている。		

 は、重点項目。